

文学研究科プロジェクト推進研究シンポジウム

まちの記憶、まちの記録

～くらしから見る大阪の過去・現在・未来～

2020年11月22日(日)
12:30-14:00 オンライン開催

<https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/archives/5903>

QRコードからも
アクセスできます



江戸時代には既に大都市であった大阪（大坂）。この街とその周辺を描いた絵入りの地誌としては早くは『摂津名所図会』『和泉名所図会』（共に寛政8年/1796）、『河内名所図会』（享和元年/1801）などがあります。カラー版の記録としては、たとえば二種の浮世絵版画シリーズ「浪花百景」があり、ここに描かれたイメージは、私たちにとって馴染みの深いものです。また大正後期から昭和初期、いわゆる大大阪時代には数多くの旅行案内書が刊行されており、その系譜は現代の観光ガイドにまで連なります。

一方、大阪の街が、時代の変化に伴って絶え間なくその姿を変えながら、今も私たちの生活の場として、あるいは生活の傍らにあることは言うまでもありません。たとえば近世以前からの歴史を踏まえての町の現在、既存の建造物が持つ記憶とそこで生まれる新たな試みを、注意深く観察することで私たちは発見することができます。

本シンポジウムでは、「記録」と「記憶」をキーワードとし、重層的かつ多角的に近世以来の巨大都市・大阪（大坂）の姿をトレースしていくこととします。

司会

大場茂明（文学研究科教授・地理学）

報告

天野景太（文学研究科准教授・文化資源学）

寄本圭子（文学研究科博士後期課程・文化資源学）

松井恵麻（文学研究科博士後期課程・地理学）

菅原真弓（文学研究科教授・文化資源学）